

令和4年11月14日

京都鞍馬口医療センター 第9回地域連絡協議会 議事概要

日時 令和4年11月11日(金) 14:00~15:00

出席者	上京東部医師会 会長	小林 雅夫 先生
	京都北医師会 会長	余 みんてつ 先生
	京都府健康福祉部医療課 参事	松尾 治樹 様
	紫明社会福祉協議会 会長	柴山 泰朗 様
	利用者代表	山田 友恵 様

(京都鞍馬口医療センター)

院長	水野 敏樹
副院長	山下 哲郎
統括診療部長	淵田 真一
事務部長	今中 俊之
看護部長	松原 栄子
副看護部長	酒井 美枝
総務企画課長	仲西 規雄

1. 開催の挨拶 (京都鞍馬口医療センター院長 水野 敏樹)
2. 委員 (出席者) 紹介
3. 活動状況報告等 (京都鞍馬口医療センター院長 水野 敏樹、

事務部長 今中 俊之)

地域基幹病院として JCHO 京都鞍馬口医療センターの役割、当院の概要、
診療実績 (入院・外来患者数他)、新型コロナウイルス感染症対応他

※詳細：別紙参照

4. 意見交換 (進行：京都鞍馬口医療センター事務部長 今中 俊之)

小林) 患者さんの受入れについては、快く受けていただいておりますが、放射線科については、現在常勤医師がおられないようですので、なんとか来てもらえるようお願いします。

今中) 4月から放射線科医師が不在になった後、遠隔画像診断を行い、読影を委託している状況ではありますが、緊急時(至急時)は、患者さんを紹介していただき、内科や外科医師側で診察させていただきます。検査だけが必要な方については、翌日以降になりますが、遠隔画像診断で専門医が読影しており、読影した結果(レポート)を返信出来るようにしております。

水野) 現在、遠隔画像診断を利用する形になっております。(フルタイムではないですが)放射線科医師も来ていただいております、その先生方と意見交換をしながら、所見等をチェックしているため、クオリティという点は担保しております。とは言え、常勤医師が必要なことは私達も同様に思っておりますので、引き続き大学と交渉しながら努力しているところであります。

余) 北区は大きな病院が少ないこともあり、この病院は患者さんに紹介する病院の1つであり、たいへん信頼しております。また、日頃から地域連携の方々も快く対応してくれています。コロナ禍ではありますが、我々開業医はどうしようもない時に受入れていただくと非常に助かりますので、よろしく申し上げます。

今中) 当院も職員や患者さんのコロナ感染等により、受入れ制限や部屋の管理・ベッドコントロールに苦労したりすることもありましたが、クリニックからの紹介は出来る限り受けるよう、管理者会議等でも進めております。

淵田) 地域連携室としても、なるべく開業医の先生からの依頼は、受けるようにしております。19時迄対応出来ますので、何かございましたらお電話いただきましたら対応いたします。

今中) 当院の地域連携室ですが、事務員が連絡を取ってから医師や看護師等と調整しておりますが、それぞれ別々の場所になっていきますので、一部屋にすることでよりスムーズな受入れが出来るのではと考え、取り組んでいるところであります。

松原) 第7波の時は、職員の感染が多く発生して対応しきれなかったところがあり、ご迷惑をお掛けしたと思っています。第8波に向けては出来る限り影響を大きくしないよう、体制を整えたうえで先生方とも協力しながら当院の役割を果たしていきたいと思っています。

また、地域連携室においては事務職員が窓口になり、該当する診療科やベッドについて調整しているのですが、看護職員が近くにいないため、情報を取るところで不十分となり、お待たせすることがありましたので、場所を一つにするだけでなく、看護師が入ることで速やかに情報をキャッチして、受入れの返事も早く返していきたいと思っています。次年度明けには稼働出来るよう準備しているところでありますので、よろしく申し上げます。

松尾) 全国的に、公的・公立病院の役割を明確化することが重要視されており、医療機関連携と役割分担の強化が求められていることは、国の協議会等でも意見が出ております。行政的にも来年度は、6年に1回の保健医療計画見直しの年度であり、また次の年には地域医療構想最終年度になっているため、この1・2年で地域医療が大きく機能していくことが必要と考えているところであります。

また洛中アライアンスについても、こういった新しい医療機関連携については、たいへん注目しているところでありますので、情報をいただきながら行政としても出来ることは、取り組んでいきたいと思っています。

今中) コロナについても出来る限り受けるようさせていただいていますが、スタッフの補充が上手くいかない現状の中、発熱外来や救急医療を継続しながらになりますので、マンパワー的につらいところもありますが、公的病院として受入れ出来るよう努力していきたいと思っています。

また、第8波に備えての入院待機ステーション派遣についても、可能な限り協力出来るよう考えておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

柴山) 私ども社会福協議会は、病院にかからないように予防も兼ねて、脳トレや健康体操など月2回開催しております。社協に来られる方はお年寄りが多いのですが、

この病院にかかっている方も多いようです。学区が近いということもありますが、先生方の診察が常に丁寧であり、入院時は看護師さんも親身になって対応してくれるため、この病院無くしては有り得ないという意見も耳にしております。

個人的にも健診（腹部エコー）から早期発見に繋がっていただいたことでもありますので感謝しております。コロナ禍の中これからもたいへんだと思いますが、ご尽力いただきたいと思っております。

また、今回再開される市民公開講座についても楽しみにしております。回覧のお手伝いも出来ますので、お声かけくだされば協力させていただきます。

今中) 市民公開講座については、昨年開催のこの会議で再開を要望いただいていたと思います。外来フロアを利用して 20 名程度、密にならない程度になりますが、少しずつでも再開出来ればと思い、実施することになりました。また、出前講座なども今後出来ればと思っておりますので、引き続きご協力をお願いします。

酒井) コロナ禍のため健診に来られる方が減少している現状ではありますが、その理由としては、事業所の移転やステイホームになってしまったので、会社の健診がなくなってしまったなどでありました。事務職員中心に受健者を増やそうと取り組んでおりますが、なかなか数字に表れてこない現状ですので、お力添えをお願いしたいと思っております。

山田) コロナ禍の状況で利用者として一番気になったのは、入院している患者さんのご家族が病院にお見えになった時、医師から看護師そして窓口である守衛さんへの連携がとても難しかったように思います。荷物を届けに来た際、多くの高齢者が長時間並んで待っていました。医師から看護師、患者、そして守衛さん迄行き届くように連携を取り、スムーズな対応をしてほしい。家族の気持ちも汲み取っていただけたらと思います。

また、皮膚科の待ち時間や歯科口腔外科の次回予約がかなり先になること、コロナワクチン接種を3回目からは実施されなくなったことなども検討していただけたらと思います。

今中) 守衛については、指導が行き届かないところもあったと思います。引き続き指導しながら情報が行き渡るようにしたいと思います。

松原) いただいたご意見の中で、情報伝達が上手くいかなかったり、人によって対応が違ったりすることは日常的にも耳にしており、課題であると思っております。引き続き見直していきたいと思しますので、今後ご意見を教えていただけたらと思います。

5. 閉会の挨拶（京都鞍馬口医療センター 副院長 山下 哲郎）

以上